

荒尾市民病院が担う 役割について

平成30年4月 荒尾市民病院

1 現状と課題

【荒尾市民病院の現状（基礎情報）】

基本理念・方針

「地域住民の健康の維持・増進に努め、患者中心の安全で質の高い医療の提供を目指します。」

(1) 地域住民の信頼に応える病院

(3) 地域医療を支え環境にやさしい病院

(2) やりがいを持てる魅力ある病院

(4) 経営基盤が安定し地域を守り続ける病院

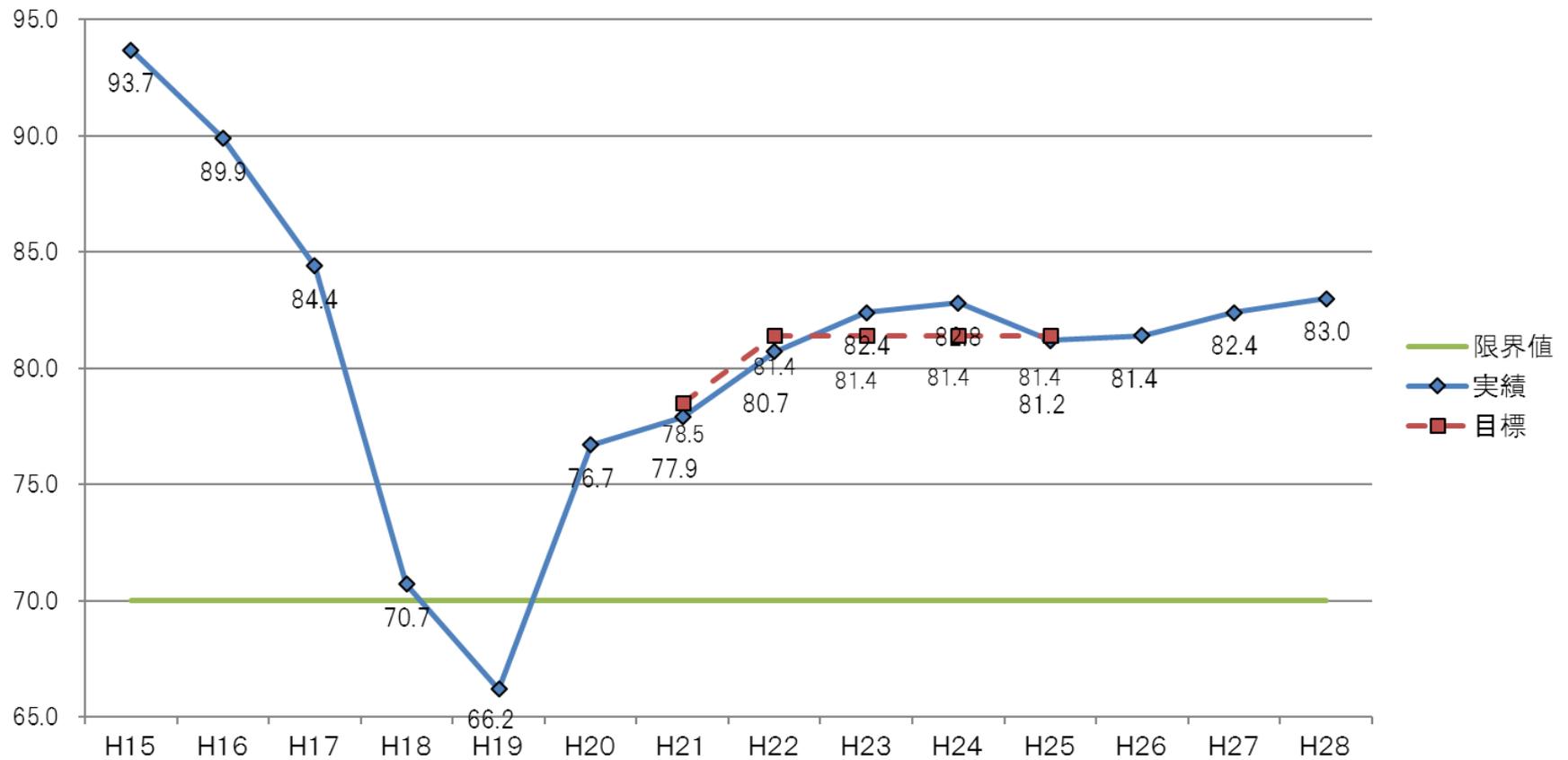
病院概要

- ◆ 許可病床数274床(一般病床270床 感染症病床4床)
ハイケアユニット18床 一般病棟198床 (7対1入院基本料)
回復期リハビリテーション病棟40床 宿泊ドック3床 休床15床
- ◆ 診療状況 (平成30年3月末日現在)
1日平均入院患者数: 229人(年間延べ83,733人)
1日平均外来患者数: 356人(年間延べ86,776人)
平均在院日数:16.0日 25診療科
- ◆ 正職員数 367名
医師40名 看護師207名 その他医療従事者87名 事務職等33名
- ◆ 主な指定等
地域がん診療連携拠点病院 地域医療支援病院 脳卒中急性期拠点病院
急性心筋梗塞急性期拠点病院 基幹型臨床研修病院 周産期医療拠点病院 等

1 現状と課題

【荒尾市民病院の現状（診療実績）】

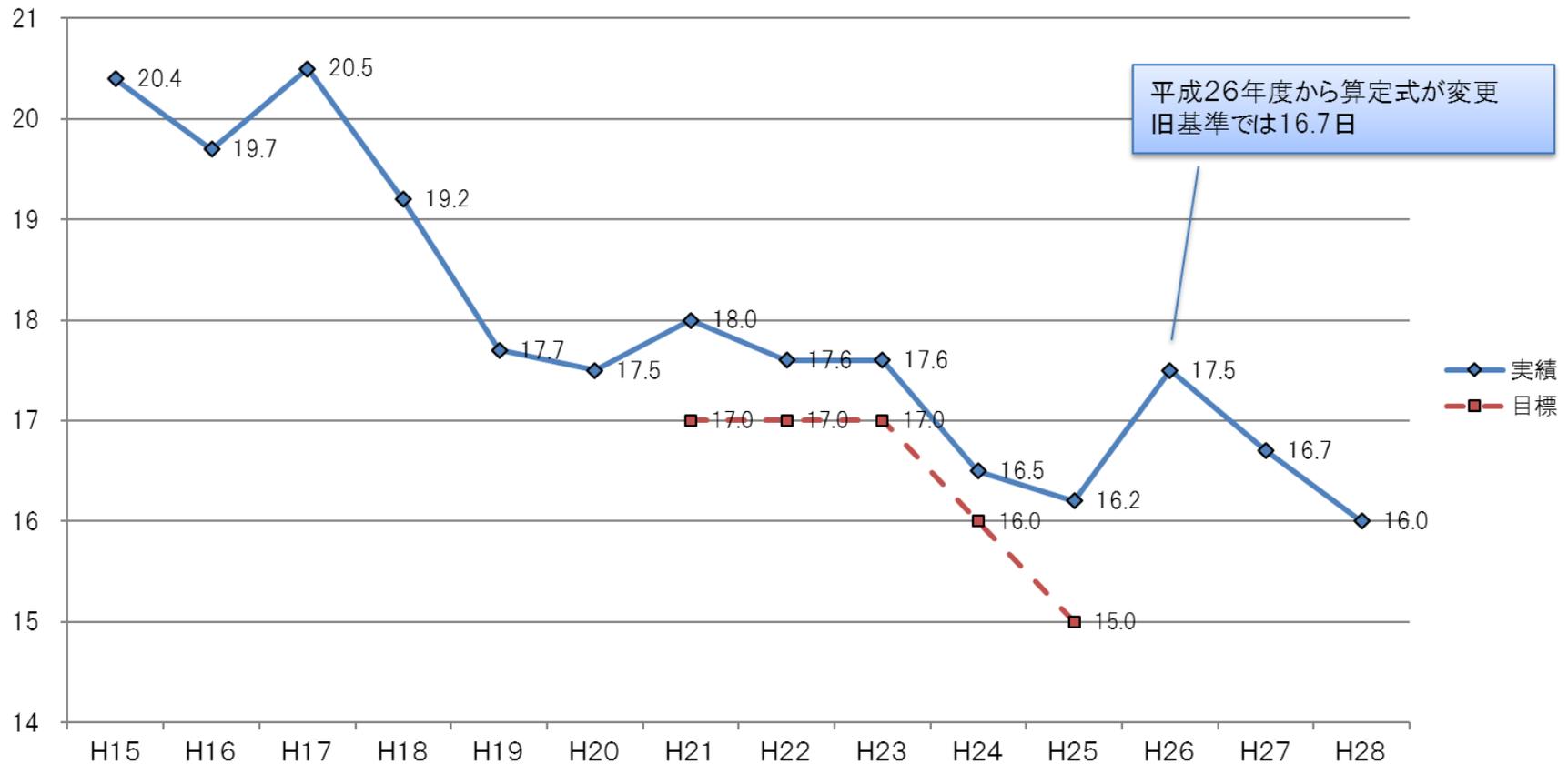
病床稼働率の推移



1 現状と課題

【荒尾市民病院の現状（診療実績）】

平均在院日数の推移



1 現状と課題

【荒尾市民病院の現状（診療実績）】

経営状況

平成15年度から平成28年度までの推移

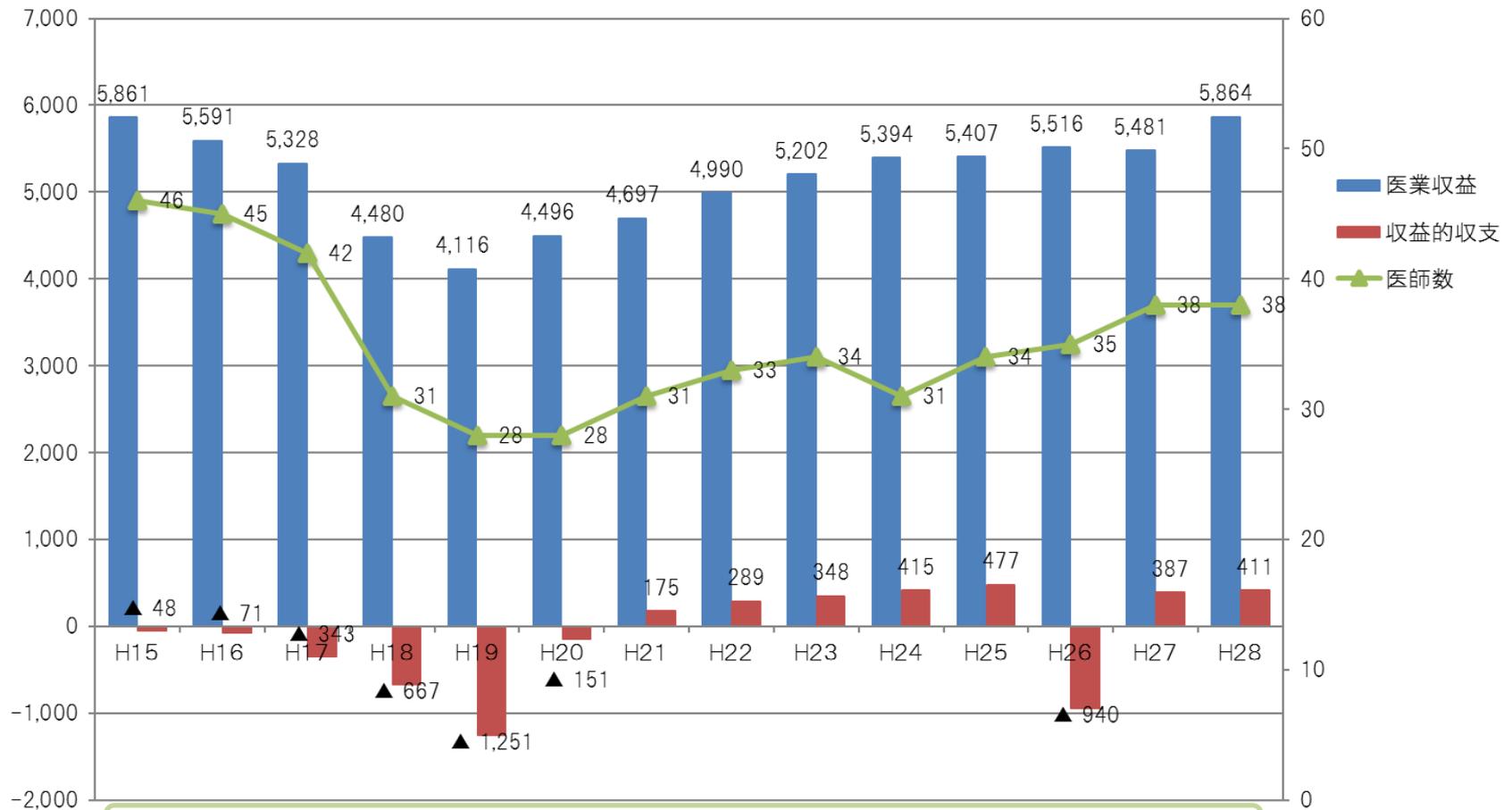
平成26年度から新会計基準
変更初年度のため、引当金等の一時的な費用等の増加あり
旧基準換算では約319百万円の黒字

	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
経常収益	6,018	5,774	5,494	4,659	4,308	4,727	4,999	5,357	5,466	5,631	5,781	5,798	5,829	6,213
医業収益	5,861	5,591	5,328	4,480	4,116	4,496	4,697	4,990	5,202	5,394	5,407	5,516	5,481	5,864
医業外収益	157	183	166	179	192	231	302	367	264	237	374	282	348	349
経常費用	6,034	5,817	5,821	5,307	5,518	4,851	5,017	5,257	5,302	5,401	5,487	5,507	5,641	5,800
医業費用	5,827	5,618	5,631	5,135	4,898	4,661	4,816	5,082	5,134	5,256	5,362	5,332	5,473	5,618
医業外費用	207	199	190	172	620	190	201	175	168	145	125	175	168	182
経常損益	▲ 16	▲ 43	▲ 327	▲ 648	▲ 1,210	▲ 124	▲ 18	100	164	230	294	291	188	413
特別損益	▲ 32	▲ 28	▲ 16	▲ 19	▲ 41	▲ 27	193	189	184	185	183	▲ 1,232	199	▲ 2
特別利益	1	1	1	1	5	0	200	200	200	200	200	200	200	1
特別損失	33	29	17	20	46	27	7	11	16	15	17	1,432	1	3
純損益	▲ 48	▲ 71	▲ 343	▲ 667	▲ 1,251	▲ 151	175	289	348	415	477	▲ 940	387	411
累積欠損金	1,772	1,843	2,186	2,853	4,104	4,255	4,080	3,791	3,443	3,028	2,550	2,061	1,674	1,264

1 現状と課題

【荒尾市民病院の現状（診療実績）】

医師数・医業収益・収支の推移



H20年以降、経営状況は改善傾向が続いている

1 現状と課題

【荒尾市民病院の現状（診療機能）】

がん〈国指定地域がん診療連携拠点病院〉

- がんの適切な治療の提供
- がん患者の地域医療機関との連携による診療
- がん医療に関する情報提供および相談支援

〈手術・患者件数(H29年度)〉

H28年度新規がん登録者441人

外科手術477件 外来化学療法の数1,342人

放射線治療3,380回 入院化学療法の数710人

脳卒中〈(急性期拠点・回復期)医療機関〉

- 患者来院後1時間以内に専門的治療開始可能
- 再発予防の治療対応可能
- 専門的リハビリテーションの実施

〈手術・患者件数(H29年度)〉

脳外科年間入院患者数721人

(うち脳血管障害349人、頭部外傷81人)

血腫除去、脳動脈瘤、脳腫瘍、等脳神経外科的手術59件

1 現状と課題

【荒尾市民病院の現状（診療機能）】

急性心筋梗塞 〈急性期拠点病院・回復期医療機関〉

- 緊急心臓カテーテル検査に対応
- 心大血管疾患リハビリテーションの実施

〈手術・患者件数(H29年度)〉
循環器科年間入院患者数548人
心臓カテーテル検査253件
(うち経皮的冠動脈形成術102件)

救急医療 〈救急告示病院⇒地域救命救急センターを目指す〉

- 県内に9名しかいない救急指導医が常勤
- 独立した診療科としての救急科の存在
- 熊本県版ドクターヘリ事業への参画

〈患者件数(H29年度)〉
毎日平均27人(救急車6台)
救急外来を受診(うち5人が入院)
救急外来患者数9,710人 (うち入院患者数1,855人)
うち救急車 2,109人 (うち入院患者数 997人)

1 現状と課題

【荒尾市民病院の現状（診療機能）】

感染症医療（第2種感染症指定医療機関）

- 結核を除く二類感染症患者に対する入院医療
- 各医療機関における院内感染防止や医療従事者の医療安全と感染防止に対する意識の向上を図る

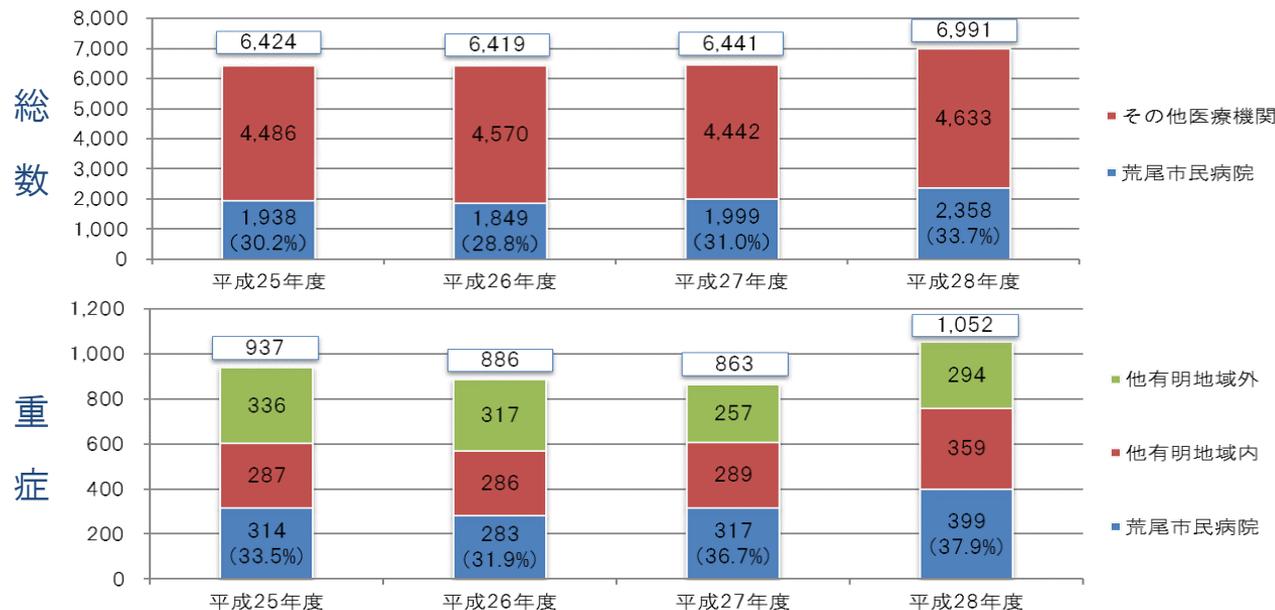
小児・周産期医療（地域周産期中核病院）

- ハイリスク妊娠に対応（近隣の産婦人科と連携し母胎救急疾患に対応）
- 新生児期から思春期にいたる身体的疾患・発達障害の診療及びサポート

災害医療（災害拠点病院の指定を目指す）

- 大規模災害発生時の患者受入や救護活動に対応
- 病院版BCP（業務継続計画）の策定
- 災害医療コーディネーターの配置

参考…有明広域行政事務組合消防本部
管内の搬送状況（年次推移）



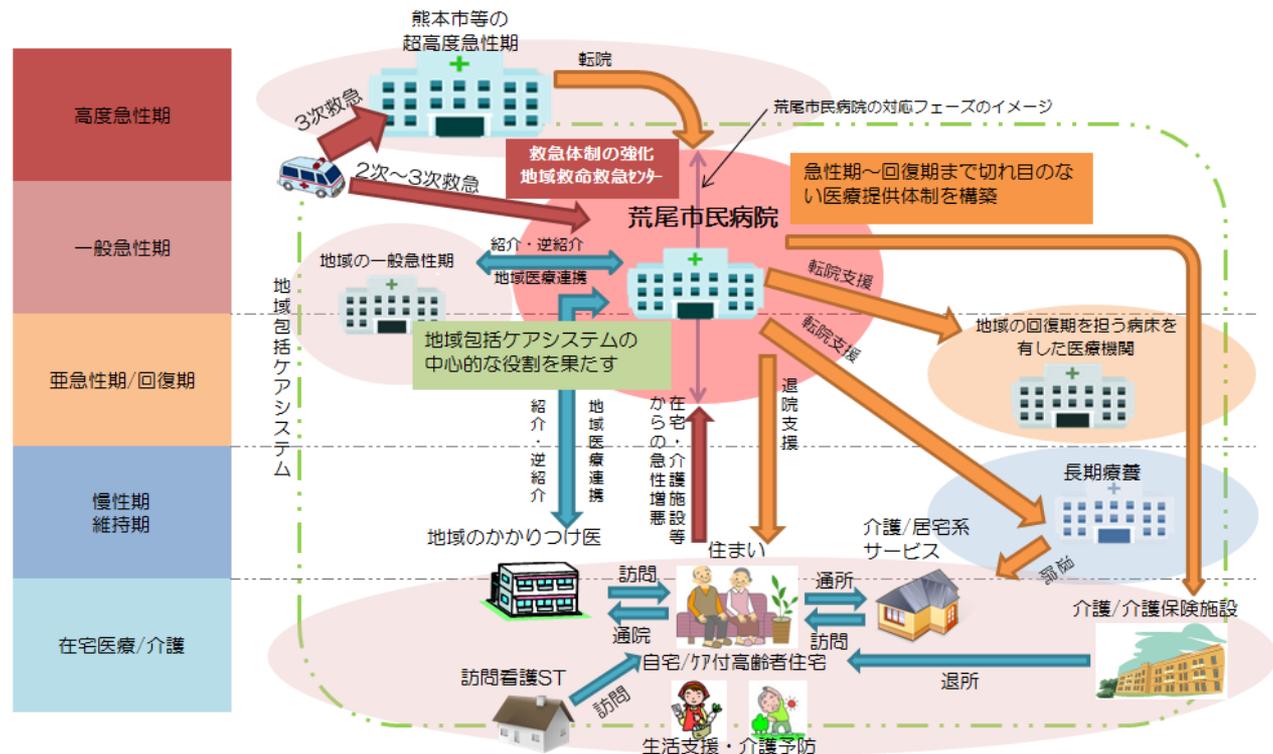
出典：有明広域行政事務組合消防本部 救急統計搬送データ

1 現状と課題

【荒尾市民病院の現状（診療機能）】

地域包括ケアシステムの構築に向けて

- 地域に不足している急性期後や回復期の機能を担い、慢性期、維持期との円滑な連携
- 荒尾市在宅医療連携拠点（在宅ネットあらか）と相互に連携
- 疾病の予防や早期発見のため、特定健診やがん検診などの各種健診事業や熊本大学等が実施主体の大規模認知症コホート研究に協力



医療・介護・予防・住まい・生活支援を一体的に提供する「地域包括ケアシステム」の構築に向けて、地域の中核病院である当院が率先して地域医療連携の推進に取り組み、地域包括支援センターや保健センター、介護施設等とも更なる連携強化を図る

1 現状と課題

【荒尾市民病院の課題】

病院機能の強化・拡充

●災害対応

災害拠点病院に求められる機能の整備

●救急搬送数の増加と不応需解消

地域救命救急センターに相応しい受入体制と病床の確保

●新病院建設

非効率な病棟配置、狭隘化、老朽化 ⇒ 平成34年開院に向けて

医療資源（従事者等）の確保

●常勤医師や看護師等の確保

非常勤から常勤体制へ（呼吸器内科）、救急重症患者対応のため看護師の増員

●働きやすい環境づくり

効率的な医療を実現するためICTの活用、就労環境等の改善（働き方改革）

●医療従事者への教育・研修の充実

院内職員向け、地域の医療従事者向け

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

県北の命と暮らしを守る拠点であり続けるために

今後も、地道な地域活動を行いつつ、市民をはじめとした地域住民の求めている、安全で質の高い急性期医療を提供し、地域住民に信頼される病院を目指す。

また、地域包括ケアシステムの視点から、地域住民が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療だけではなく、介護や住まい、生活支援サービスなどと切れ目のない連携を図り、自宅だけではなくどこに暮らしていても必要な医療を確実に提供することを目指す。

地域医療構想を踏まえた当院の果たすべき役割

（診療機能の充実）

- ・高齢化に伴う救急医療の需要増加に鑑み、重症患者への対応の充実を図るため、地域救命救急センターの指定を目指し、脳卒中、急性心筋梗塞を中心とした循環器系疾患の対応を充実させる。
- ・公立病院として、地域の民間医療機関が提供困難な、高度医療、救急・小児・周産期・災害医療などの不採算・特殊部門に関わる医療や感染症医療等の政策的医療について充実させる。

（急性期後の受け皿としての機能）

- ・高齢化の進展に伴う入院患者の増加に対応するため、充実した疾患別リハビリテーション機能を活かし、回復期リハビリテーション病棟を充実させ、在宅復帰支援機能を強化する。

（他の医療機関との機能分化・強化と連携）

- ・地域の医療機関、介護事業者との連携をより一層推進する。

（快適な療養環境の整備）

- ・地域住民の医療サービス向上のため、快適な療養環境を整備する。

（予防医療・健康づくり対策）

- ・生活習慣病の予防対策や、疾病の早期発見による重症化予防のため、健康管理センターを強化し、市や関係団体とも協力しながら、予防医療・健康づくり対策に積極的に取り組む。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 ① 4 機能ごとの病床のあり方 その1 】

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期	18	33 (H29報告) 18 (H30報告予定)	33 (H29報告) 18 (H30報告予定)
急性期	194	154 (H29報告) 206 (H30報告予定)	154 (H29報告) 206 (H30報告予定)
回復期	40	80 (H29報告) 46 (H30報告予定)	80 (H29報告) 46 (H30報告予定)
慢性期			
その他	休床15		
計	267	267 (H29報告) 270 (H30報告予定)	267 (H29報告) 270 (H30報告予定)
報告外病床	感染4 ドック3	感染4	感染4
合計	274	274	274

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【① 4 機能ごとの病床のあり方 その2】

- ◆昭和16年の創立以来、有明医療圏の中核病院として、荒尾市民はもとより、有明地域の住民に対し、医療の安心と安全、健康の維持・増進を図るため、質の高い医療を提供してきた
- ◆公立病院として、地域の民間医療機関が提供困難な、高度医療、救急・小児・周産期などの不採算・特殊部門に関わる医療や感染症医療等の政策的医療を提供してきた
- ◆5疾病では、がん（地域がん診療連携拠点病院）、脳卒中（急性期拠点病院、回復期医療機関）、急性心筋梗塞（急性期拠点病院、回復期医療機関）、5事業では、救急医療（救急告示病院、病院群輪番制病院）と周産期医療（地域産科中核病院）の指定を受けるなど、地域の中核病院として、24時間365日総合的な診療体制を維持し、有明地域の救急搬送総数のうち30%以上を受け入れてきた
- ◆有明医療圏は病床過剰地域であるが、急性期後の患者の受け皿となる病床は、隣接する大牟田市を含めても少なく、荒尾市内には当院以外に回復期リハビリテーション病床を有する病院が無いため、その機能を担ってきた

今後も当院が役割を果たしていくためには、5疾病・5事業等を中心に今後も提供し続けることが求められているため、病床数の維持が必要である

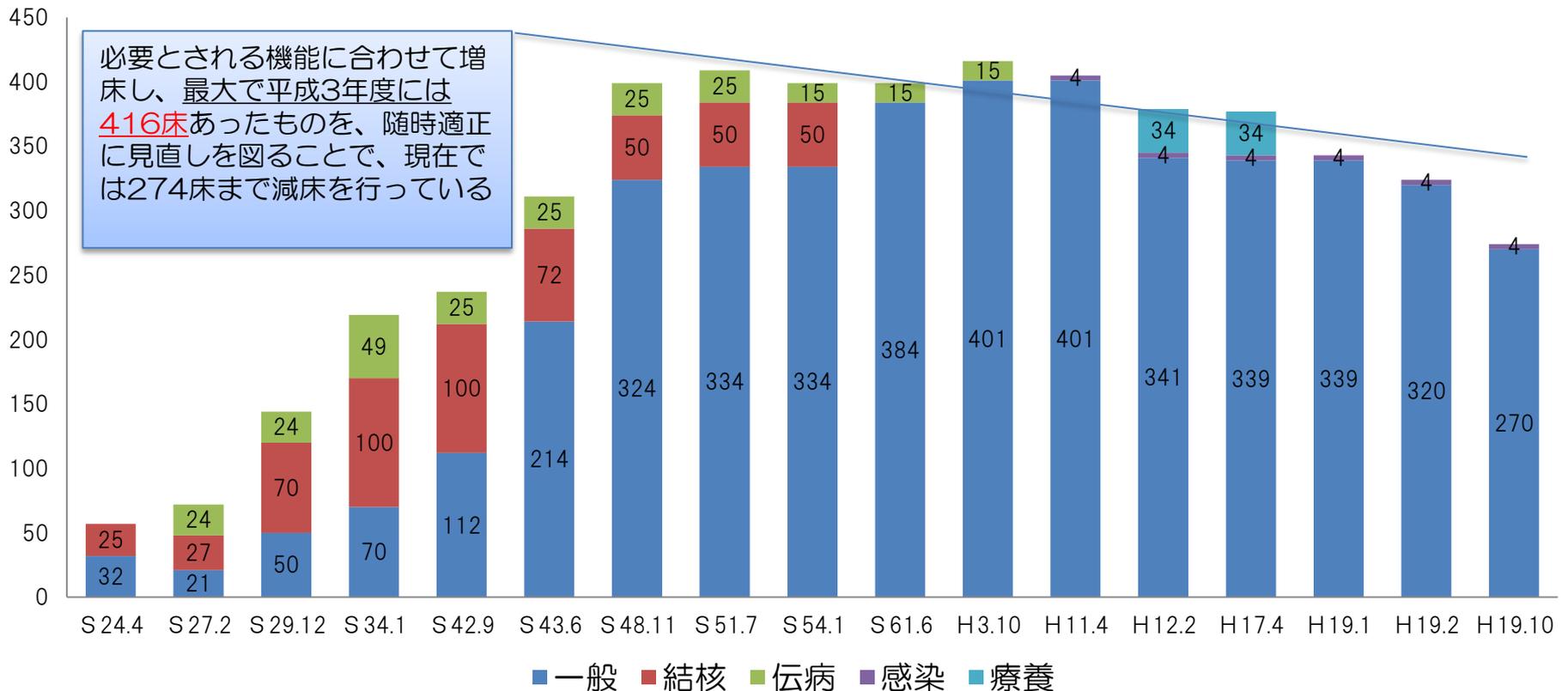
有明医療圏は医療資源が不足していることもあり、患者が他の圏域へ流出していると予想されているが、病床を活用し更なる連携を図ることで、医療圏内での完結を目指していく

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 ① 4 機能ごとの病床のあり方 その2 】

〈参考〉 荒尾市民病院の許可病床の推移



これまでに制度の改変や受療動向等に対応するため、許可病床の適正化を実施済

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【① 4 機能ごとの病床のあり方 その3】

- ◆現在、274床（感染症病床4床除く）の許可病床のうち、252床のみ稼働している状況である
- ◆その理由は、医療法が改正される前の基準で建設されている（建設後約50年経過）ため、病室が狭く、余剰スペース等も無いため、患者の療養環境を確保するために、6人部屋を4人部屋として活用するなどの対応を行ってきた結果、看護配置基準等の影響もあり、15床を休床し、また3床を宿泊ドック専用として活用せざるをえないためである
- ◆また、多床室が多いため、感染症等の患者が入院した場合や同室者の性別を理由に、稼働したくても稼働不可能な病床が一定数存在している
- ◆今回、地域医療構想の計画期間中に新病院を建設するため、新たな病棟を整備することによって、休床している病床が活用できることもあり、地域に必要とされている質の高い医療機能を、これまで以上に提供していくものである



【窮屈な4床室】

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【②診療科の見直し】

	現時点 (2018年4月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科、外科、産婦人科、小児科、整形外科、循環器内科、リハビリテーション科、麻酔科、呼吸器内科、皮膚科、泌尿器科、脳神経外科、眼科、神経内科、消化器内科、形成外科、血液内科、代謝・内分泌内科、腎臓内科、緩和ケア内科、救急科、病理診断科、放射線治療科、画像診断・治療科、精神科	同左	質の高い医療を提供するにあたって必要となる診療科を維持するため
新設		歯科口腔外科 耳鼻咽喉科	救急やがん治療において、地域に不足機能に対応するため
廃止	—	—	—
変更・統合	—	—	—

3 具体的な計画

(2) 数値目標

	現時点(2018年4月時点)	2025年
①病床稼働率	83.7% (平成29年4月1日～平成30年3月31日) 許可病床数を274床として 【休床除く259床として計算時⇒88.6%】	88.0%
②紹介率	65.1% (平成30年3月時点)	70.0%
③逆紹介率	117.3% (平成30年3月時点)	105.0% (H28年度 新改革プラン策定時)

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

『地域住民の信頼に応える病院』

- ◆中核病院として、24時間365日総合的な診療体制の維持
メディカルスタッフの確保 高齢者医療等に対応できる診療科の充実
- ◆保健、医療、福祉における切れ目のないサービスの連携と提供
地域連携の更なる推進 平均在院日数の短縮 大規模認知症コホート研究事業等
- ◆市民の声を幅広く取り入れる「市民がつくる」病院づくり
市民の要望を生かした協働の病院づくり ボランティア 療養環境整備 バリアフリー

『やりがいを持てる魅力ある病院』

- ◆民間委託等の活用 民間企業出身者等の採用 ICTの活用推進
人材の育成 就労環境と医療の質を確保 非正規雇用者等への処遇改善 公正な人事評価

『地域医療を支え環境にやさしい病院』

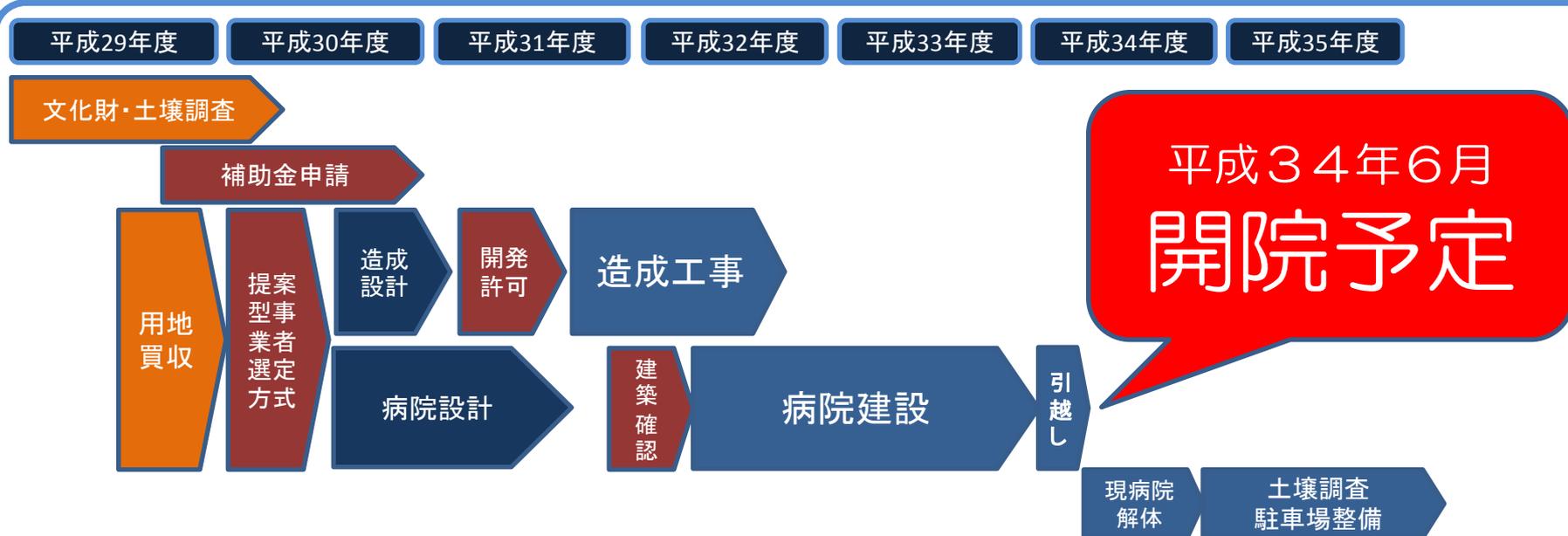
- ◆地域医療支援病院としての機能 災害に強い施設整備 感染症対策の地域の拠点機能
大牟田市を含め有明地域での医療連携体制の強化 病院版BCPの策定
- ◆地域コミュニティーやまちづくりへの貢献 地域包括ケアシステムの推進
在宅ネットあらか 地域包括支援センターや保健センター等との相互連携 私のカルテ

4 その他特記事項

【新病院建設事業】

平成34年6月開院予定

※ 開院時期は標準工期で算出しており、発注方式・工法等の工夫により工期短縮に努める。



※ 新病院開院後、解体・土壌調査・駐車場整備を行う。